

道徳科学習指導案

指導者 田中 美帆

1 日 時 平成29年12月1日(月) 3校時(10:30~11:15)

2 学年・組 第5学年月組 32名

3 主 題 名 よりよく生きる～誠実に～ <内容項目 正直・誠実 A(2)>

4 教 材 名 手品師 (文溪堂)

5 ね ら い 葛藤の末に、男の子との約束を守ることを優先し、次々と素晴らしい手品を演じた手品師の姿を通して、いつも誠実に、明るい心をもって生活しようとする道徳的心情を育てる。

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人によって異なる様々な価値観の上にそれぞれの生き方があるが、自分自身に対して誠実に生きるということは誰にとっても大切なことである。誠実さとは、正しいと思うことについて他人の意見に左右されることなく、自分の良心に従い真心をもって行動することである。児童達には、他人に対しても自分自身に対しても、ごまかしや言い逃れをしたりせずに良心を貫こうとする気持ちを大切にさせたい。

高学年となった5年生の段階において、自分自身に対する誠実さがより一層求められてくる。しかし、誠実であるためには、単なる規則尊重の気持ちではなく、自らの責任感や信念の支えによって判断する自律性が伴っていなければならない。自律的に判断し、自分自身に対して誠実に行動する生き方のよさに気づき、これからの生活の中でより誠実に行動しようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

自分自身の決定に従って誠実に行動することは、心の安定と明るさをもたらし、明朗快活な生活の源になる。だれもが自分に優しく人に厳しくなってしまう弱さをもっているが、その弱さを乗り越えて誠実に明るく生きようとするものの大切さや、自分に対して誠実であることの大切さについて、考えを深めさせていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は男女ともに仲がよく、互いに励まし合ったり注意し合ったりしながら、よりよい集団を目指そうとする様子が見られる。

2学期に入り、自我の高まりとともに多感な時期を迎えている。ほとんどの児童が規則尊重の大切さは理解しており、「きまりを守らなければならない。」「約束は守らなければならない。」等、基本的な規範意識は育っている。しかし、自分で善悪を判断して行動することの大切さを頭では理解できているものの、生活の中での実践となると、集団の中における自分の立場や仲間関係を意識したり、自分の損得を考えて行動したりしてしまうことが少なくない。ただ「約束を守らなければならない。」という規則尊重の考え方にとらわれて判断するのではなく、よりよい生き方を追求するための判断ができるようになってほしい。

この教材を通して、どんなときも自分をごまかしや自分と向き合うことから逃げたりせず、自分の心に誠実であり続けることの大切さに気付かせ、明るく生活しようとする道徳的心情を育てていきたい。

(3) 教材について

本教材は、腕はよいがあまり売れない手品師が主人公となっている。手品師は、大劇場に出ることを夢見て努力をしていたが、ある日、落ち込んでいるひとりぼっちの男の子に出会う。そして、その男の子を慰めようと手品を披露し、次の日も来ることを約束するが、その夜、手品師の友人からの電話で大劇場に出る誘いを受ける。手品師は葛藤の末に断り、次の日、たった一人の客である男の子を前に次々とすばらしい手品を見せたという話である。

長年の夢である大劇場に立てるチャンスと、男の子との約束の間で迷いに迷い、葛藤する手品師の心の揺れを捉えられるよう、大劇場に行くことを選んだ場合と男の子との約束を選んだ場合の違いをしっかりと押さえる必要がある。その上で、私利私欲にとらわれず、自ら正しいと信じるところに従い、自分に対して誠実であろうとする手品師に共感させることでねらいに迫りたい。

7 考えを深め合う授業の工夫

- 道徳ノートを活用して自分の考えを書かせることで、より深く考えさせるとともに、本時の学習を振り返ったり以前の自分の考えと比較したりできるようにする。
- 児童の発言に応じて補助発問をしたり切り返したりすることで、考えを深めさせる。
- グループで考えを交流させることで、互いの考えを深め合えるようにする。

8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	主な発問と予想される児童の反応	教師の働きかけ	準備物・評価
導入	前時の学習を振り返る。	一斉	前回の学習では、どんな生き方について考えましたか。 マザーテレサの生き方 自分の夢を貫き、貧しい人々を救い続けた。	マザーテレサの生き方について学習したことを振り返らせる。	
展開	- 教材を読む。 - 手品師の葛藤を理解する。 - 手品師が男の子との約束を優先した理由を考える。 - 手品師の生き方について思ったことを書く。	一斉 個別 一斉 一斉 グループ 個別	手品師はどんなことで迷ったのでしょうか。 <もしも大劇場に行くことを選んだら> ○お金持ちになれるかもしれない。 ○長年の夢が叶う。 ○スターになれるかもしれない。 ○たくさんのお客さんを喜ばせることができる。 △男の子を悲しませてしまう。 <男の子との約束を選んだら> ○男の子を喜ばせることができる。 △大劇場に立つチャンスを逃す。 △友人の親切を無駄にする。 手品師はどうして男の子との約束を選んだのでしょうか。 - 約束は守るべきだと思ったから。 - 男の子を悲しませたくなかったから。 - 大劇場に立つチャンスはまた自分でつかみ取ればいから。 - 大劇場を選んだら、後悔するから。 - 男の子の笑顔が見たいから。 - 約束を守る方が自分にとって正しい選択だと考えたから。 手品師は何を大切にしたらどんな生き方をしたのでしょうか。 - 男の子との約束を大切にしたら優しい生き方。 - 自分の夢よりも相手の気持ちを大切にしたら思いやりのある生き方。 - 約束を大切にしたら真面目な生き方。 - 男の子の笑顔を大切にしたら後悔のない生き方。 - 後悔のない選択を大切にしたら自分に正直な生き方。	- 男の子との約束を選ぶよりも、大劇場に行くことを選んだほうが、手品師にとっては都合がいいことを理解させる。 - 大劇場に立つことよりも、男の子との約束を選んだことにより、手品師にとってよりよい生き方ができたことに気付かせる。 ㊦ 男の子の前で次々とすばらしい手品を演じることができたのはなぜでしょう。 - 手品師の生き方に対する自分の考えを持たせることで、価値に迫らせる。	- 挿絵等 - 発問カード ※手品師の誠実に気付くことができたか。 <発表、道徳ノート>
終末	振り返りを交流する。	個別 一斉	今日の振り返りを書きましょう。	手品師の生き方を振り返り、自ら正しいと信じて、誠実に行動することのよさを感じさせる。	※いつも誠実に、明るい心をもって生活しようとする気持ちを持つことができたか。 <道徳ノート>

9 板書計画

第 回 道徳

手品師

マザー・テレサ
自分の夢を貫き、貧しい人を救い続けた。

手品師はどんなことで迷ったのでしょうか。

大劇場に行くことを
選んだら…

男の子との約束を
選んだら…

さし絵

手品師はどうして男の子との約束を選んだのでしょうか。

手品師は、何を大切にして
どんな生き方をしたのでしょうか。

さし絵

10 道徳ノート

道徳ノート

第 回

手品師

十二月 一日

◎手品師は、どうして男の子との約束を選んだのでしょうか。

名前)

(メモ)

◎手品師は何を大切にしてどんな生き方をしたのでしょうか。

手品師は、

を大切にして、

生き方をしたのだと思います。

振り返り

◎しっかりと考えることができた。

◎友だちの考えを聞くことができた。

◎自分の考えを伝えることができた。

◎自分の考えが深まった。

◎考えたことや友だちの意見を聞いて感じたことを書きましよう。

4・3・2・1

4・3・2・1

4・3・2・1

4・3・2・1